

ふくしま ★ゆめ ★トライ

福島県内で夢に向かって
新たなチャレンジをしている方、
地域を盛り上げるために
頑張っている方を紹介します！

めぐりあった仲間と 会津漆器の素晴らしさを伝える

漆とロック株式会社 代表 貝沼航さんかいぬま わたる（会津若松市）



会津の職人技と自然素材が活きる漆器ブランド『めぐり』。郡山駅構内のごおりやま観光案内所では、実際に手に取って見ることができます。

今年植樹した漆の木を囲む貝沼さん(左)と塗り師の平井さん(中央)、農地を管理する土屋さん(右)。今後、毎年100本を目標に植樹していく予定で、これからの成長が楽しみです。



視覚に障がいのある方が、鋭敏な触覚を生かして製品開発に協力。目では分からない細かい部分のデザインにまでこだわりました。



15年かけて育てる漆の木。1本から採れる漆はわずかコップ1杯分と貴重な資源です。

[Web] <https://meguru-urushi.com/>
☎ 0242-85-6803

会津漆器のプロデュースや魅力の発信を行う貝沼さん。二十代の頃、漆器職人の工房を巡り漆器の美しさと製作背景に魅了され、自分もその素晴らしさを伝えたいと起業。日々の暮らしに即した上質な漆器ブランド『めぐり』をプロデュースし、飯椀・汁椀・菜椀がセットになった三つ組椀の「水平・日月」シリーズや「めぐりの匙」が誕生しました。手触りや口当たりの良さを追求するため、商品開発の段階で視覚

に障がいのある方に協力してもらい、たくさんの方の試作を経て完成に至りました。

今年度からは塗り師の平井さん、農家の土屋さんと任意団体を立ち上げ、猪苗代町の耕作放棄地で漆の試験植樹をスタート。里山の農地における獣害被害と国産漆の供給不足という2つの問題を同時に解決し、地域にぎわいや人の交流を生み出すため始めたとのこと。これからやっていきたいことを聞くと「モノが生まれるまでの過程を共有し合うことで、作る側と使う側をつなげたい」と熱く語ってくれました。漆器を通して人と人、人とモノがめぐりあう、そんな未来を目指してこれからも挑戦は続きます。



読者からの
お便り

いつも興味深く読ませていただいています。特に「ふくしまゆめトライ」は元気が出ますね！（60代 大玉村）